

上越市議会議員 丸山 章 だより

全力で皆様の声を市政に !!

隕石の里から

いん せき さと



第6号 令和元年 5月 発行責任者 丸山 章 / 上越市清里区馬屋777

一般質問

(3月18日)
平成31年3月定例会

これで大丈夫？

上越市の観光振興戦略にスポット

— 豊富な資源生かされているか —

当市の観光行政は、残念ながら観光、交流人口を増やすための総合戦略に欠け、観光のまちづくりと観光地経営の一体的仕組みづくりが描かれていません。この度、地方創生や地域経済の活性化に有効とされる観光振興を取り上げました。

問／第5次観光振興計画の基本方針の中で「地域資源魅力向上」は、観光施策の骨格を形成する大切な項目である。今までの成果と課題等を聞きたい。

答／地域資源「技術をいかした食と特産品の魅力向上」、「潜在的な魅力発見と活用」など、4つの柱を基本に魅力向上に取り組んでいる。

問／市の様々な施策と関連付けて観光振興に結び付けているとしているが、主にどの施策が観光振興に効果をもたらしているかと見ているのか。

答／期待される効果は、「地域経済の活性化」、「地域への誇りと愛着の醸成」など多様であり、要素が重なり合うことによって更なる効果がもたらされる。

問／観光振興計画の3つの重点エリア内の魅力向上に、新しい魅力を創造するとしているが、どのような観光資源等を想定し、ポテンシャルを高めようとしているのか。

答／歴史ある建物、イベントなど、魅力ある多種多様な観光資源があり、意欲ある観光関連事業者、市民等の参画を得る中で新しい魅力を生み出すことができる。

問／観光面に精通した「観光力リスマ」認定者や「外国人」など、新たな外部人材による知見を活用するなど、「観光資源の磨き上げ」に徹底的にこだわるのが大切と考えるが。



白看板城址(清里区)より高田平野を望む

答／「観光資源の磨き上げ」は欠くことができない取り組みなので地域の魅力を高めて行くことが肝要である。行政、事業者や団体等もアンテナを高くし、連携する中で効果的に取り組んでいく。

問／インバウンドとDMOを結び付けた観光振興戦略が必要と考える。市の考えを聞きたい。

答／当市の魅力をSNSで発信したり、外国語対応など、インバウンドの受入態勢整備に対する支援等の取組を進めている。DMOは、将来世代への負担を招きかねないため、受益に見合った運営資金を確保することが、「日本版DMO」にとって不可欠であり、設立は考えていない。

再質問を通じ提案
提案①

全国初!!

「日本桜庭園・上越」構想

= 市全域 =

世界に誇れる都市づくり

高田公園の
付加価値を高める



具体的に…「日本桜庭園・上越」の姿

- ・各戸(世帯)、事業所、団体等のご理解を得て、桜(ソメイヨシノ)を挿し木又は小さな苗木をすくなくとも1本購入していただき、大切に育てていただく。植える場所がない場合は、鉢植えで参加していただく。
- ・各区で協議の上、植栽可能地に桜を植えていただく。

- ・植栽面積、本数ともに、世界・日本に類を見ない規模に!
- ・並行して、他の観光資源の魅力を向上させ、ストーリーを仕立てていく。
- ・観光の軸となる「しつかりした幹」にしなやかな枝(様々な観光資源)を配し、話題性、関心度、注目度、抜群の観光都市をめざす。

期待される効果は…

- ・「日本桜庭園・上越」の呼称が計画等に反映され、市民の認識が深まり意識統一が図られる。
- ・市民の方々の更なる自信と向上心の高まり。
- ・愛着や誇りを抱ける地域づくり
- ・当市の知名度、ポテンシャルが向上。
- ・外国人客の誘客やリピーター増につながる。
- ・他の観光資源や移住定住者対策、市内経済等への波及効果が望める。
- ・多種多様なジャンルでのブランドづくりにつながることが期待できる。

問／高田公園の桜をどのようににグレードアップしようとしているのか。

答／高田公園であれば、春の桜と夏のハスであるが、

高田平野は、関川とその支流からなる複合扇状地となつています。この地形や山(妙高連峰、関田山脈、名峰「米山」、海など、自然が創り出してくれた特徴ある素晴らしいロケーションを当市の木「桜」という観光資源により際立たせる。そのうえ、春日山城跡、雁

②魅力を高め、県内外及びインバウンド(外国人)客等と呼び込み、市内経済の活性化並びに移住定住者等の増加をめざす。

II コンセプトII

①市民の方々の手づくりによる観光の核(土台)となる「日本桜庭園・上越」をつくり、新たな観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げる。

街の演出

木の街並み、寺院群などの豊富な観光資源を複合的に絡み合わせ、それぞれの持ち味を高めて行く。そして、10年〜20年後を見つめながら当市そのものを桜庭園化し、世界に誇れる「光り輝く都市」づくりをめざす。

市民の方々の手づくりによる観光資源の創出は、究極のまちづくり、地域づくりにつながるもので、まちづくりの原点であります。全国でこうした試みはないと思われるので特徴づけられ、その波及効果は大変大きく、話題性、注目度も加速すると考えます。

高田の街並み、水族館などを組合せて全体としての観光価値を高めて行くことを進めている。

問／南葉高原キャンプ場、春日山城跡、ビュー京ヶ

岳などに出向き、桜で埋もれた市域（高田平野）を想像したところ、実に圧巻な光景が脳裏に「日本桜庭園・上越」として浮かんだ。構想をどのように思うか。

答／過去に植栽したが管理されなかった。全市に広げるかどうか、樹種をどうするかは限られると思うが、既に、地域でそれぞれの取組が行われている。

問／過去の失敗を糧にし、新たな観光資源を創り出す熱意があれば、市民の方々も振り向いて下さると思う。

答／市が統一的にこうするのではなく、市民の高まり、熱意を受けて取組むべきものと考えている。

問／上越コンベンション協会がイベント漬けで四苦八苦している様に感じら

れるが、実態とイベントを纏めて開催すること、考えたいことがあるのか。

答／多忙な面は伺える。毎年同じことを行うのではなく、担い手の関係等もある中で、協会とも連携して見直しを進めて行きたい。

問／交通の利便性の良い関東圏、北陸地方をターゲットにし、住んでみたい街の演出等を通じながら、多くの方々から当市のような観光資源にも目に触れていただき、良さを体感してもらうことが大切と思う。

答／イベントには歴史や成り立ちなど物語があるうえ、地域から離れるという弊害の可能性もあると思う。メリット、デメリットを考慮に入れながら検討の余地はあると思う。

「住んでみたい」

「住んでみたい」

提案②

宿泊観光へと導く

市内経済を潤す

「謙信公祭」「ハス祭り」「酒祭り」同時開催

美しさ、規模ともに東洋一とうたわれているハスの見ごろ時期にイベントを設定し、「満開のきれいなハスを見て心を和ませていただく」、「謙信公祭で感動していただく」、「上越新潟」の酒と美味しい食を存分に楽しんでいただく」個々のイベントの価値を高める。



司令塔と戦略の必要性

○地域によつては、関係者の巻き込みこそが最も難しいことかもしれないが、そのためには強力な司令塔が必要である。また、地域の強み・弱みをしっかりと見極めて戦略を立てた地域経営視点での観光振興が必要となる。

○特に、ターゲットの設定については、「誰にとつてもいいところ」は、最終的には特徴がなく「どうでもいいところ」ともなりかねないため、地域

の持つDNA・地域資源・最終ゴールとなる地方創生を見定め、ターゲットを明確に決めていくことが必要である。

（観光振興による地方創生に向けての論文より抽出掲載 2017.3.2
みずほ総合研究所）

問／みずほ総合研究所の

【司令塔と戦略の必要性】について意見を聞きたい。

答／自分たちはこういう事をしてほしい。地域の魅力を通じてマーケットに受け

問／主な観光資源（謙信公、桜、雁木の街並等）に重点投資し、認知度が高まれば他の観光資源へ大きな波及効果をもたらすと考えられるが。

答／百年料亭や百年映画館整備の取組、春日山城跡や水族館など、単体で磨き上げるだけでなく、繋ぎ合わせて全体の価値を上げて行く取組をしている。



問／観光資源の活用や将来の観光市場を読み解くことはとても難しいことは承知している。途中での計画変更を視野に入れ、2年程かけて調査研究し効果的な観光振興計画にすべきと考える。

答／市民、専門家の意見を聞きながら、行政が蓄えて来た知見を踏まえて計画を立てるので、特定のチームで長い時間をかけることは考えていない。

問／DMOの組織化について、以前より消極的になったのでは。意思統一が必要だからそれを待ちたいとの待ちの姿勢になっているが、DMO法人のところへ行つて調査研究したのか。

答／色々なフォーラムに参加し、その中心人物を通じて研究を進めているが、事業者、行政、市民の間で統一が図られていない部分があり、先ず意識の共有が大切である。

問／熱意のあるところは成果を出している。行政が

積極的にならなかつたら何処でまとめるのか。観光庁から人的等の支援があるのに、なぜ活用しないのか。

答／官主導でスタートしても、民間が求めている発想と行動ができないと確実に凋落する時期がくる。観光に携わる皆さんとDMOをこの地域に根づかせる研究をして行きたい。



一般質問 12月14日
平成30年12月定例会

少子化対策に

密接に関係する 人口部分の施策にスポット

当市が抱える多くの課題の中で、少子化対策に関しては喫緊の重要課題と言えます。今、生涯未婚率の上昇が社会問題になっていますが、当市も同様であります。少子化等による人口減少は、将来、市の経済や高齢者対策、教育等、様々な分野へ大きな影響を与えることが予測できることから、平成30年3回目の質疑をしました。

縁結び・婚活支援

問／良縁を取り持つ組織(縁結びボランティアセンター)の設置やサポーター・アドバイザー制度の導入等を行う考えはないか。

答／新潟県では、『あなたの婚活』応援プロジェクト、JAEちご上越では『ここるときめきイベント』を開催。市は引き続き関係団体と連携し取組を推進する。

問／若者、独身者の結婚を促すため、経済的な支援

を図ることを目的に、結婚相談所入会費用等の助成や結婚祝金制度を整える考えはないか。

答／他自治体の状況を参考に、経済的支援はその必要性や効果を十分に見極めながら慎重に判断すべきであり、現時点で取組む考えはない。

問／自治体が行う婚活や相談所なら安心感があるほか、費用負担も低額で済むとの意見がある。婚活イベント等の事業を市で行う考えはないか。

答／官民の関係機関・団体において、既に、若い世

感じられない 危機意識！

代の人たちが望む「出会い」を後押しすることにより、結婚しやすい環境をつくり出そうとしている。

【再質問】

問／当市より条件の厳しい地域で人口が止まりつつある事例もある。先例のない中で自ら悩み、汗をかき、地域内外の人々と議論しながら地域力を高めている。少子化対策

の入り口部分に当たる結婚問題に対して、なぜ積極的に取組もうとしないのか。

答／過去に出会いの場の提供などを行う事業を実施していたが、成果が得られなかったことから事業を廃止した。現在、民間業者と幅広く事業を展開している。

問／担当課に確認したところ、旧上越市合併前時代の事業で実績がないから、それ以来、全く婚活事業は行わなかったとの

提 案

縁結び ボランティアセンター 設置



世話好きの(善意)の方々の
活躍の場を!!

こと。この問題に対してどのような指示を行って来たのか。

答／まち・ひと・しごと創生総合戦略は、結婚も含めて総合的な対策を官民一体となつて取組を行っている。

問／官民一体で行っている

化する中で出会いがあつて、結果的に結婚ということになれば全てが婚活となる。出会いづくりを民間と連携して対応したい。

問／創生総合戦略の中に具体的に若者の出会いサポート事業が明記されている

答／創生総合戦略は、市と

民間57事業者を含めてつくった計画である。それが当市で進めている政策である。商工会議所の女性会が開催していることも当市が行っていることにつながる。

問／良縁を取り持つ組織(センター)をつくり、様々な

問題に対応することで効果が期待できる。合併以前の事業で結果がでなかったので取組まなかったでは話にならない。調査結果から若者の多くは出会いがないとのこと、組織づくりへの前向きな考えはないか。

答／組織づくりは考えていない。出会いがないのではない。出会いがないのではなくて、生活の形、思い、自分自身の望み、生活のありようも変わってきている。出会いをどのように捉えるかが難しい。行政が組織をつくったとして、結婚できないので誰か良い人いませんかと相談を受ける状況は、今の若者にはないと思っている。

一考 (株)共同通信社が昨

年行った調査によると、全都道府県が婚活支援事業を実施し、市区町村単位でも半数超が取組んでいるとの結果が出たとのこと。各自自治体で婚活支援の取組が拡大していることが明らかになっています。

問／若い人達は、多様性・

価値観の中で生きていると思う。会社等に勤めておられ出会いも沢山あると言われるが、出会いの場が必要との調査結果が出ている。サポート体制をどのように考えるか。

答／自分の結婚相手を他の人に見つけてほしい。若者の価値観に占めるかというところ、そうは思わない。若者が誰かに紹介してもらって結婚したいと思っている方は時代の背景からして私はあるとは全く思っていない。

一考

最近、少し前と比べても、いわゆる婚活に

熱心な人が増え、お見合いのような正式な場所だけでなく、アクティブに婚活に馳せ参じる人もどんどん増えてきています。多様性の社会でありながら逆行している市長の思考に驚きました。

【感想】

婚活支援の質疑を通じ、市長と私の認識は全く違っていました。昔は、紹介やお見合いなど、世話好きな方々がおられました。今は個人情報等により下手に動けない世の中になってしまい、善意を尽くしたいと思ってもなかなか一歩が踏み出せない環境にあると思います。世話好きの方々が安心して動ける組織(環境)づくりやサポーター等の育成は大切なことであります。少子化対策(縁結び、婚活等)は重要課題でありますから、民間と協力し合うことは当然ですが、民間任せで市独自の対策を何もしないで良いということにはなりません。これから少子化対策関連施策を考えて参ります。

いきいき 地域のお話

地域づくりを見つめ「心ひとつに集う」
「生きる力」と「幸せ」のために!!



○秋の健康ウォーク(新道区)

平成30年10月13日(土) 稲田地内

10年以上前から行われている行事で、昨年秋の参加者は120名程。世代を超えたふれあい交流は地域住民との連帯感の醸成に寄与。



○第22回箕冠まつり(板倉区)

平成30年10月21日(日) 山部小学校

山部小学校と地区合同で行われる伝統ある「箕冠まつり」紙芝居や音楽演奏を楽しみ。参加者の満足そうな表情が印象的



○雪ん子まつり(中郷区)

平成31年2月9日(土) 岡沢町内会特設会場

一堂に会する地域の底力を感じる冬のイベント。温かい食べ物を頬張り、雪中宝さがしなど歓声がとどろく。活気ある一日を満喫。



○諏訪区移住促進フォーラム(諏訪区)

平成31年2月16日(土) 諏訪公民館

住みやすい地区なのに人口が減少。地域の将来を見据え移住・定住促進策等について、約40名の参加者は講師の話を熱心に聴講。



○三郷区ウインターフェスティバル(三郷区)

平成31年2月17日(日) 三郷小学校グラウンド

6回目を迎えたフェスティバル。子供たちを中心に大勢が参加し雪上レースなどに歓喜、親子ふれあいの楽しい一日を過ごす。



○清里区シニア冬期スポーツ大会(清里区)

平成31年2月21日(木) 清里スポーツセンター

高齢者の健康維持と仲間通しの交流等を図る大会で、10チーム311名が参加。熱気ムンムンで高齢者の元気に圧倒される。

証 検**平成31年度一般会計予算
将来を見据えた予算か？**

広報じょうえつ等で周知された平成31年度予算ですが、果たして当市の課題解決に結び付く有効な処方箋としての「予算編成になっていたか」、残念ながら疑問の残る予算になってしまいました。

改めて本年3月定例会文教経済常任委員会の際に指摘したところ、建設を肅々と進めるとの回答でした。

今のままでは、確実に当

市の人口は減少し、体操人口も減少の一定と思われなかで、今ある大潟体操アリーナと(仮称)上越市体操アリーナを併用して行くとのことですが、理解しがたいものです。



(仮称)上越市体操アリーナ建設現場

予算配分とは言えず、ポイントがボヤケてしまったように感じます。

〈大きな疑問〉

(仮称)上越市体操アリーナ建設の件ですが、本体工事にかかる予算16億8千万円が計上され、本年度中の完成を目指していることから

一方、財政が厳しい状況にあるから、様々な事務事業の見直しや廃止並びに第三セクター等の温浴・宿泊施設に大ナタを振るおうとしています。同様の体操施設を2つも建設する中で、果たして市民の方々の理解が得られるのか心配です。

／あきらのつぶやき／

村山市政は三期目に入っています。一昨年10月の市長選挙において、僅差であったものの市民の方々の半数以上が村山市政に期待していることが証明されたこの事実は大変重みがあります。従って、市長の市政運営を尊重、協力することは言うまでもありませんが、(仮称)上越市体操アリーナのように社会通念上の許容

できる限度を超えてしまうものは別格です。

私は、議員になった当初から市民の方々の目線と、将来の上越像を見詰めながら市政が半歩でも前進できる手段は何か、そういう観点を意識しながら議員活動を行ってまいりました。

趣味の囲碁から教わったことですが、「囲碁十訣」という中国古代より伝わる10の格言があります。その中の印象に残るものに、慎勿軽速(慎んで軽速なるなか

れ)という言葉があります。これは冷静な目で常に全局を見つめ直すことが必要という意味合いのものです。

市政運営で、ただ単にコストや収支に基づき結論を出すのであれば、職員に任せておけば良いことですが、政治家は別次元の判断が必要であり、求められます。少子高齢者対策、観光振興、第三セクターの存廃等、市長は様々な案件で決断を迫られることになりましたが、賢明な判断を期待したいものです。

●過去にこんな例がー

新潟県小千谷市塩谷という集落があります。この地は冬期間3く5メートルも積る豪雪地帯であります。戦前は、村と小千谷の町を行き来するには、険しい雨乞山が立ちはだかるところだったことから、村人たちは手掘りで5年かけ1943年に長さ500m、幅わずか1・5mの隧道を貫通させました。しかし、落盤事故等があったことから国

に陳情し、田中角栄氏の決断により小千谷市塩谷地区に1977年に塩屋トンネルが完成しました。当時、「たった60戸に12億円の投資か」、「カネを各戸に2,000万円ずつ分けて引越してもらった方がいいのではないか」というマスコミ等の批判があったとのことです。

【田中角栄氏の名言】

60戸の集落に12億円かけ

るのはおかしいとの批判があるが、そんなことはない。親、子、孫が故郷を捨てず、住むことができるようにするのが政治の基本なんだ。だから私はこのトンネルを造ったんだ。

「大事なのは理屈じゃない。生まれ育ったところに帰って来られる。そこで暮らしている。何が悪い。そうするのが政治家の役割だ」と。政治家の心構えとしての名言であります。

『あきら、の信念』

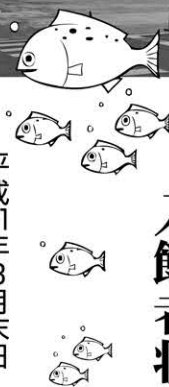
「にげない」「ブレない」「あきらめない」

年間入館目標 **60万人**

既に大幅更新 驚きの数字！

水族博物館「うみがたり」の

入館者状況



平成31年3月末日

現在の入館者

合計 732,759名

年間バスポート購入者

30,935名



当市のシンボルの施設として誕生しました水族博物館「うみがたり」が、昨年6月26日にグランドオープンし、もうすぐ1年を迎えようとしております。当初の年間入館目標数60万人をすでに大幅に上回る人々から足を運んでいただいておりますが、これからの観光交流人口の増加などの要にな

り続けてくれることを祈りたいと思います。

なお、残念なことに、3月10日(日)に2頭目のバンドウイルカが死んでしまいました。現在2頭でイルカショーは開催されています。

一言に市政

津有区
男性 20歳代

市に求めることは、都市企業の誘致と子育てしやすい環境づくりです。県外

に進学し、卒業を機に地元に戻るか都市部で就職するかの選択になった場合、「勤めたい企業や職種があるか」「趣味を楽しむ場所や娯楽施設があるか」「将来的に子育てをしやすい環境であるか」決める上で

大きなウエイトを占めると思います。働く場所や娯楽を提供する企業がもつと増えれば、地域の担い手になり得る人材の確保に繋がると思います。子育ての

面では、妊産婦・子ども医療費助成事業の拡充や保育料の軽減など、経済支援が整ってきていると思います。子どもと一緒に遊べる施設や気兼ねなく食事を楽しめる商業施設が増えれば、更に子育てしやすい環境になる

と思います。当市に帰つてきたくなるような地域づくりを求めます。

春日区
女性 30歳代

上越市は、子育てしやすい街ですが、一つ足りないところがある

と思っています。それは、放課後児童クラブの日曜と祝日の預かりです。核家族で日曜も祝日も出勤がある仕事をしています。が、園の時は、「ファミリーヘルプ保育園」があり、とても助かりました。しかし、放課後児童クラブは日曜と祝日が休みなので、小学生になった今は大変です。何とか夫婦で勤務を調整しています。が、精神的な不安は常にあり、安心して子育てができていたとは言えません。小学生の日曜と祝日の預け先として、ファミリーヘルプ保育園の小学生版ができ、安心して子育てができる環境に整うことを望みます。

編集後記

最近、1年の過ぎるのがとても速く感じるのですが、皆様はいかがでしょう。先日、ネットで偶然見たのですが、代謝量が落ちる年長者ほど時間が短く感じられる。対策として、「日々の生活に適度な運動を取り入れる」「日々、適度な緊張感やワクワク感を大切に」など、そうです。日々、規則正しい生活が大切なのかもしれません。この度、新しい元号が「令和」となりましたが、それに合わせ私のホームページも6月から今までの議会だよりを掲載するなど、内容を一新しますので、ご覧いただければ幸いです。心新たに日々精進してまいりますので、今後ともご指導のほど宜しくお願いします。

ご相談、ご意見等は お気軽に

市会議員 **丸山 章**

携帯 090-4724-0574

TEL 025-528-3859

FAX 025-528-3859

Eメール:

amaru102@yahoo.co.jp

ホームページ 丸山章

検索